

見つけよう！伝えよう！川北の魅力

川上北小学校 伊藤 慶

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

生活科のまち探検では、自分たちのまちのお気に入りの場所を見つけ、そこにいる人と関わり、自分たちの疑問を解決することを経験している。3年生になり、社会科の学習を通して地域のことを知り、まちの様子や移り変わりについて興味をもち始めている。

上級生の活動を目にする機会が多く、総合的な学習の時間にどんなことをするのか楽しみにしている。学習や活動の中で自分の考えをもつことはできているが、それを表現することに対して苦手意識をもっている。

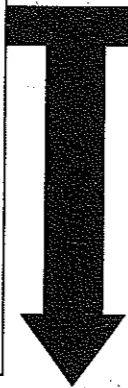
また、今年度自分たちの学校が50周年を迎えるということに対して、驚きと何かお祝いをしたい、という思いをもっている。

身に付けさせたい力と材について

本校は、50年前に川上小学校の分校として設立された学校である。50年の中で、地域の様子は変わっており、昔からの地区である川上町に加え、マンションが多い地区の上品な様子も子どもたちが通うようになっている。それとともに、校舎の増築や給食室の移設、体育館の新築など時代とともに姿を変えてきた。今年度50周年を迎え、子どもや保護者、地域の方々の学校に対する関心が高まっている。

本単元で学校の魅力を追究していくうちに、自分たちだけで探っていくのではなく、卒業生や地域の方にも聞いてみたい、という必要感が出てくるだろう。川上北小学校に関わる人たちから、学校の様子だけでなく、地域の様子も聞くことで、「川上北小の魅力」と「地域の魅力」がつながり、学校を支えてくださっている人たちの存在に気づき、川上北小の魅力をこれからはつなげていきたい、という思いをもつことができると考える。

また、情報誌やポスターを制作する人と関わりながらポスターの内容を考えていくことで、思いを表現することの楽しさを感じることができるようになりたい。



単元目標

川上北小の魅力を探したり聞いたりする活動や、ポスターづくりをする活動を通して、自分たちを支えてくださっている方々の存在や地域の温かさに気付くとともに、ポスターづくりをする人たちと関わることを通して、思いを表現することのよさや価値に気づき、自分のこれからの生活に生かしていこうとする。

単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>川上北小学校の魅力を知らずでなく、その価値を理解し、未来につなげていくことが大切であるということが分かる。</li> <li>川上北小学校が、地域の人達に支えられていることが分かる。</li> <li>ポスターは、取材から得た様々な情報から、自分たちが伝えたい情報を精選し、発信者の意図が明確に伝わるものであることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた情報をどのように発信すると自分たちの感じた川上北小学校の魅力を伝えることができるのか、情報を分類し整理する。</li> <li>専門家に教わったことをもとに、相手意識や目的意識をもってポスターづくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の魅力について調べたり話し合ったりして「学校の魅力を伝える」という目標を実現しようとする。</li> <li>ポスターづくりやポスターの展示会を開き、自分たちの作ったポスターを見てもらい、感想をいただくことで、達成感や成長を感じ、関わってくださった人への感謝の気持ちを持ち、学校や地域を大切にしていこうとする。</li> </ul>

2 研究主題との関連

学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間

(1) 実社会・実生活と「つなぐ」

本単元では、川上北小の50周年をきっかけに、子どもたちが学校のことを調べ、そのうちに「学校の魅力を知るためには、自分たちだけで調べるのではなく、卒業生や地域の人にも聞いてみたい。」という思いを持ち、地域の人とつながっていけるようにする。地域の人と関わり、学校の魅力を追究していく中で川上北小が地域の人に支えられて50周年を迎えることに気づき、自分たちの学校をこれからも大事にしていこうという気持ちをもつことができるようにする。…ア

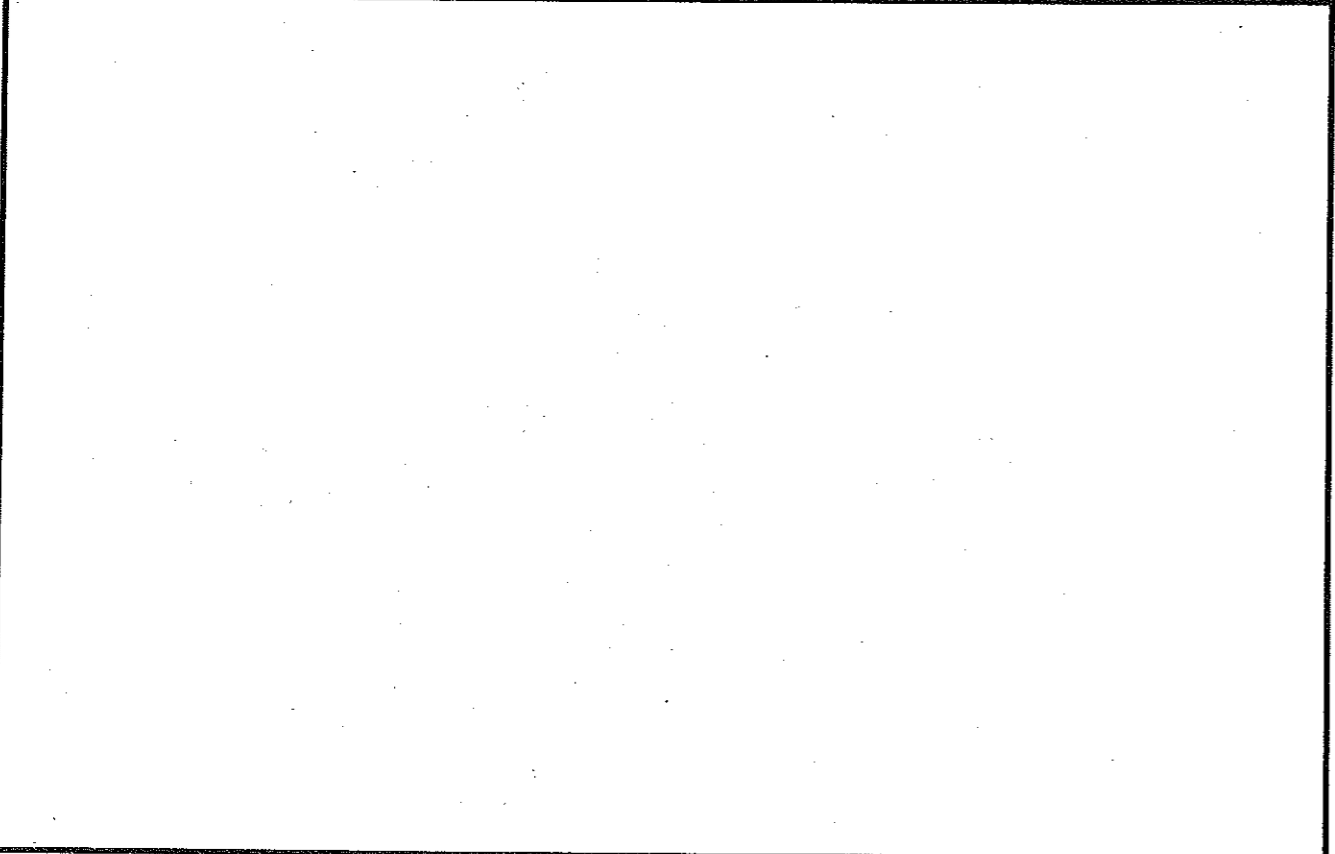
また、川上北小の魅力を一人1枚のポスターに表現することで、自分の考えや思いを表すことのよさに気づき、ポスター以外でも自分の考えを相手意識や目的意識をもって伝えていきたい、という思いをもてるようにする。そして、学校の魅力を伝えていくことが地域の人達の喜びにつながることに気づき、「これからも地域の人に喜んでもらいたい。」という姿を目指していく。…イ

見つけよう！伝えよう！川北の魅力  
横浜の時間 44 時間（総合 40 時間＋国語 4 時間＋常時活動）

- ・社会科で川上北小の今と昔の航空写真を比べてみたよ。学校も学校の周りの様子もずいぶんと変わったんだね。
- ・今わたしたちがいる川上北小には、これまでの川上北小にないものがたくさんあるね。
- ・川上北小ができた時からずっとあるものものことも知っているよ。
- ・今年 50 周年になる川上北小のことをもっと知って、川上北小の魅力を学校のみんなや、地域の人に知ってもらいたいな。
- ・学校の魅力がたくさんありそうだから、見つけたものをそれぞれポスターにして、お知らせしたらどうかな。

川北の魅力をさがろう！総⑫＋常時活動

- 川北の魅力だと思えるものを探す。
- 見つけてきたことを伝え合う。



魅力が伝わるポスターを作ろう！総⑬＋国語④

- ポスターの作り方を知る。
- 川北の魅力を伝えるポスターをかく。
- 作ったポスターをいつ、誰に見てもらおうのか話し合う。
- 川北の魅力が伝わるポスターになっているかを見合ったり、見てもらったりして、手を加えたり作り直したりする。

- ・ポスターづくりで大事なことを〇〇さんに教えてもらったよ。1枚のポスターには、短い言葉や少ない絵の中にたくさんの思いが込められているんだね。
- ・出来上がったポスターをインタビューした人に見てもらいたいな。
- ・来年度入学してくる保育園や幼稚園の子にも見てもらったら、学校に来るのが楽しみになるんじゃないかな。
- ・見る人に川北の魅力が伝わるようなポスターになっているかな。〇〇さんにも見てもらおう。

ポスターの展示会を開こう！総⑮

- 展示会でポスターの説明をしたり、感想を聞いたりする。
- 自分たちの活動を振り返る。

- ・展示会に来てくれた地域の人達が、ポスターを見て嬉しそうだったよ。みんなが川北のことを思ってくれているんだね。
- ・アンケートに「これからも、学校の魅力をたくさん見つけてください。」って書いてあったよ。4年生になっても川北の魅力を見つけていきたいな。
- ・町内会の掲示板に貼れば、また地域の人が見てくれるんじゃないかな。
- ・町内会長さんにポスターを渡したら、昔の学校の話をしてくれたよ。また、川北のことが新しく分かったよ。
- ・自分たちが調べた川北の魅力を、これからも大事にして伝えていきたいな。

今月は、実践提案を通してⅠ研究主題—1 単元構想について、みなさんと語り合っています。会の流れは以下になります。

15:30~40:ミニ研修  
15:40~45:講師紹介とワークシヨップの説明 15:45~50:単元の説明(提案書より) 15:50~16:15:ワーク① 16:15~22:ワーク②  
16:22~30:共有タイム 16:30~45:講師指導講評

ワーク②:  
今回の単元では、どのような「生きて働く知識」を身に付けることを期待するか、もしくはこんな姿が「生きて働く知識」につながるのではないのか、具体的な子どもたちの姿で話し合ってみる。キーワードになる言葉や、つながる具体的な姿を話し合ったり、画用紙に記入したりする。

メモコーナー:

ワーク①:

「川上北小の魅力を感じる」を、単元の柱にした場合、単元構想の「魅力を探る」小単元の中で、自分たちで調べる他に、どんな活動が想定されるのかを考える。学びをつなぐの(1)実社会・実生活と「つなぐ」を意識した活動にしていきたい。また、考えられる活動から実際にどんな子どもたちの姿(つぶやき、振り返りカードの記述、活動の様子や行動、他者との関わる姿など)が想定されるのかも考える。ワークの流れは以下になります。

- ・赤の付箋に活動を記入する。
- ・青の付箋に子どもたちの姿を記入する。
- ・赤付箋を並べて大まかな活動流れを作成する。
- ・その横に青の付箋を並べる。

以上の振り返りをもとに、課題から浮き彫りになった「つなぐ」をキーワードとして、研究主題を設定した。

2 研究主題の意図 ~「学びをつなぐ」とは~

(1) 実社会・実生活と「つなぐ」

子どもは自分が暮らす実生活や地域の中にある本物との関わりを通して、「~ってどういうこと」「~ってなんだろう」という興味・関心をもち、その追究を通して「~したい」と、思いや願いを高めていく。そんな子どもの思いや願いを引き出し、高めていくような対象とのつながりを大切にしていきたい。また、そのような対象との関わりを通して気付いたり考えたりしたことを、「だから、わたしは~していきたい」と、自身の生活や地域をよりよいものにしていくとする思いや願いへとつなげていきたい。…ア

そして、そのような思いや願いの実現に向けて、自信をもって前向きに自身の生活を改善したり、社会に参画したりしていきこうとする姿を目指し、追究の中で身に付けた資質・能力等に、子ども自身が気づき、自らの変容や成長を自覚できるようにしていきたい。…イ

(2) 一人ひとりの学びを「つなぐ」

子どもが対象と体験的に繰り返し関わることを通して得られる気付きは、一人ひとり違う。そこで得た気付きを共有することで、個の追究が質的に高まったり、課題に対する結論や新たな課題が生み出されたりする。さらに、他者見方・考え方と自分自身の見方・考え方をつなげることで、対象に対する理解を深め、広げ、一人ひとりの中に実生活・実社会の中で生きて働く知識が形成されることを目指していきたい。そのためにも、一人ひとりの子どもの学びをつなげていきたい。…ウ

(3) 授業と授業、単元と単元を「つなぐ」

学びを深め、資質・能力を育成していくためには、本時や本単元の学習活動が、前時・前単元での体験や気付き、課題とつながっていて、子どもにとって意味のある学習活動になっていることが重要である。そこで、本時・本単元で気付いたことや考えたことが、次時・次単元の学習活動へとつながっていくように、子ども自身が思いや願い、見通しをもって、探究的に単元を展開していけるような指導・支援を重視していきたい。…エ

そして、単元の立ち上げ・終末においては、幼保小のつながり、生活科と総合的な学習の時間のつながり、その中での学年間のつながり、さらに、小中のつながりについても、意識していきたい。…オ

また、育てたい資質・能力は、生活科・総合的な学習の時間だけで育成することができるものではない。教科等の内容や学習で生まれた疑問、興味・関心を生活科・総合的な学習の時間の学習へとつなげたり、生活科・総合的な学習の時間で「本物」と関わることで生じる子どもの学習活動への強い思いを他の教科等の学習の深まりへとつなげたりする等、他教科等の授業単元との横断的なつながりも意識していきたい。…カ

Ⅱ 研究内容(研究主題にせまるための取り組み・具体的な視点)

☆:研究主題との主な関連 下線:年度の重点課題  
生活科・総合的な学習の時間における「学びづくり」は大きく「単元構想」と「授業づくり」の二つの柱からなる。その二つの柱に沿って、研究主題に迫るための取組を整理する。

- |   |
|---|
| <p>1 単元構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 材の吟味</li> <li>(2) 単元で迫りたい内容、育てたい資質・能力の分析・明確化</li> <li>(3) 課題の設定及び子どもの思いや願い・思考に沿った単元の展開</li> </ul> <p>2 授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 前時までの子どもの見取りに基づく期待する姿の設定</li> <li>(2) 期待する姿に向けた教師の手立ての明確化</li> </ul> |
|---|

